研究活動報告（アルファベット順）

2005年（１月１日から12月31日、ただし著書・論文等の著作に関しては、2005年度中に刊行、出版が確定している場合を含む）における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動企画・推進委員会よりの依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限られていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名、(専門領域)、Ⅰ．著訳書、Ⅱ．学術論文、Ⅲ．その他の著作（報告書、雑誌、新聞等)、Ⅳ．学会発表、Ⅴ．その他の発表（シンポジウム、講演、放送等)、Ⅵ．学会および公的な機関の委員、Ⅶ．科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

Bramley, David（ブレムリー・デビット）〔Education, TESOL〕

Ⅰ．著訳書

(1) “Score Goals In TOEIC 400”，Shohakusha，2005年4月

(2) “Score Goals In TOEIC 500”，Shohakusha，2005年4月

(3) “Score Goals In TOEIC 600”，Shohakusha，2005年4月

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1) “Discussion Classes at OJC — Bridging the Gap”，『大阪女学院大学紀要』創刊号，2005年3月，単著

智原　哲郎（ちはら・てつろう）〔言語能力評価法〕

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「初年次教育・導入教育：フレッシュマンウィーク」，大学教育学会第27回大会，於：京都大学，2005年6月11日

(2) 平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム パネリスト，文部科学省，於：アクロス福岡，2005年11月1日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 日本言語テスト学会新事業 企画委員

(2) 大学英語教育学会関西支部 評議員

(3)「特色ある大学支援プログラム」第３審査部会委員主査

(4)「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」第３部会委員

Cline, William（クライン・ウィリアム）〔Education, TESOL, Environment, Religion〕

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1) “Teaching Energy Efficiency at OJC”，『大阪女学院短期大学紀要』35号，2006年3月，単著

Ⅳ．学会発表

(1) “Blessed are the Peacemakers (Research report on why many US Christians support the Iraq war.)”，2005 Peace as a Global Language Conference，Kyoto Sangyo Daigaku，Nov. 12, 2005

Cornwell, Steve（コーンウェル・スティーブ）〔Education, TESOL〕

Ⅰ．著訳書

(1) “Co-Constructing a Community of Qualitative Researchers”, “Professional Development in Language Education Series” (PDLE), Volume 4, “Communities of Supportive Professionals”, TESOL, INC，2005年11月，共著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

（1）“Report on the 9th OECD Japan Seminar on the Future of Universities”，『大阪女学院大学紀要』創刊号，2005年3月，単著

Ⅳ．学会発表

（1）“How to Get Published”，Temple University Applied Linguistic Colloquium，於：東京，2005年1月

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）JALT The Language Teacher, Editorial Advisory Board Member

（2）JALT Jalt Journal, Editor

Fujimoto, Donna（フジモト・ドナ）〔TESL, Intercultural Education〕

Ⅱ．学術論文

（1）“One Approach to the Study of Identity: Listening to Nikkei Voices”，『大阪女学院短期大学紀要』35号，2006年3月，単著

（2）“Student Management of EFL Small Group Discussion”，Temple，Univ. Japan Applied Linguistics Colloquium Proceedings 2005，2005年12月，単著

（3）“Intercultural Appropriacy—From Discourse Analysis to Macro-Level Pragmatic Strategies”，Proceedings for Far Eastern English Language Teachers Association（FEELTA），2005年4月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

（1）“The Participant Structure of Japanese EFL Discussions”，Teacher Education Interest Section Newsletter, TESOL，2005年12月，単著

Ⅳ．学会発表

（1）“Three-part participant structure in Japanese L2 group discussions”，Temple University Japan Colloquium，於：Temple Univ. Japan, Tokyo campus，2005年2月13日

（2）“Nikkei Narratives—A Narrative Analysis”，SIETAR Japan Conference，於：Rikkyo Univ. Tokyo，2005年6月25日

（3）“The Contrast Culture Method and the Post-Accommodation Stage”，SIETAR Conference，於：Rikkyo Univ. Tokyo，2005年6月26日

（4）“Participant structure in EFL group discussions”，AILA（World Congress of Applied Linguistics），於：University of Wisconsin-Madison，2005年7月28日

（5）“EFL Student Discussions: Turn Shift and Topic Shift”，Asia TEFL Conference，於：China Resources Hotel, Beijing, China，2005年11月4日

（6）“Nikkei Narratives”，Peace as a Global Language Conference，於：Kyoto Sangyo University, Kyoto，2005年11月11日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

（1）“Intercultural Education and Language Teaching（intensive course）”，Language Institute of Japan II，於：Asia Center, Odawara，2005年8月6～10日

（2）“Lessons in Pronunciation”，Language Institute of Japan II，於：Asia Center, Odawara，2005年8月7～10日

（3）“Nonverbal Communication for High School English Classes”，Kobe University Teacher Training Seminar，於：Kobe University，2005年8月4日

Hansen, Jerrod（ハンセン・ジェレッド）〔Anthropology〕

Ⅳ．学会発表

（1）“The Weakest Link of Overseas Study: Dealing with homestay matchings”, SIETAR Intercultural Communication Praxis Seminar，於：Izukogen, Japan，2005年10月16日

原田　純子（はらだ・じゅんこ）〔舞踊学，舞踊教育学〕

Ⅱ．学術論文

（1）「体感から捉えた舞踊運動の基本感情とその用語（1）」（柴眞理子、坪倉紀代子、猪崎弥生、原田純子、塚本順子），『神戸大学発達科学部研究紀要』第12巻第２号，2005年3月，共著

（2）「踊る技術の向上と体感獲得の過程―舞踊経験の浅い学生の感情価に基づいて―」（原田純子、柴眞理子、猪崎弥生、塚本順子），『体育科教育学研究』第21巻第２号，2005年8月，共著

（3）「舞踊鑑賞の視点に関する事例研究」，『大阪女学院大学紀要』創刊号，2005年3月

Ⅳ．学会発表

（1）「舞踊を観る視点に関する研究―アイカメラを用いた視線計測」（阪田真己子・原田純子・徳家雅子），日本体育学会，於：筑波大学，2005年11月24日

（2）「舞踊作品の鑑賞に関する研究―アイカメラによる計測と質問紙調査」（原田純子・阪田真己子・徳家雅子・内田　治），舞踊学会，於：立命館大学，2005年11月26日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

（1）「共生の現場から“公開ワークショップ～ダンスで出会う、ダンスでつながる～”」，国立民族博物館，於：国立民族博物館，2005年11月12～13日

（2）第７回子育て支援セミナー 講演「身体表現の力―より良いコミュニケーションのために」，主催：㈶こども教育支援財団、㈶総合教育研究財団、後援：兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会，於：人間力開発センター，2005年12月3日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）大阪府立豊中高等学校学校 協議会協議委員

Ⅶ．科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

（1）財団法人大阪府男女共同参画推進財団（ドーンセンター）協催事業・ダンスワークショップ“自分らしく…しなやかな身心による身体表現～ほぐす・おどる・つながる～”，2005年6月12日

井上　文彦（いのうえ・ふみひこ）〔心理学〕

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

（1）「学生へのより良い援助的関わりのために」，桃山学院大学，於：桃山学院大学，2005年2月25日

（2）「高校生に出会う広報担当者のイメージづくり」，私学研修福祉会，於：浜松，2005年5月11日

（3）「カウンセリング概論」，関西いのちの電話，於：博愛社，2005年5月12日

（4）「ゲシュタルトワークショップ」，日本ゲシュタルト研究所，於：高野山，2005年8月5～8日

（5）「ロールプレイ実習」，関西カウンセリングセンター，於：天満研修センター，2005年8月27日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）日本人間性心理学会 常任理事・自主企画助成委員長・企画活動委員

（2）日本人間性心理学会 倫理規定作成委員長

（3）関西いのちの電話 評議員

（4）関西カウンセリングセンター スーパーバイザー

（5）PHP 心の電話相談室 スーパーバイザー

Johnston, Scott（ジョンストン・スコット）〔International Education; Intercultural Communication〕

Ⅱ．学術論文

（1）“Establishing a Writing Center: Initial Findings”，『大阪女学院大学紀要』創刊号， 2005年3月，共著

Ⅳ．学会発表

（1）“A School Organized to Support Returnees and Doubles”，SIETAR，於：Rikkyo Univ. Tokyo，2005年6月26日

（2）“The Simulation BAFABAFA Simplified”，SIETAR，於：Izu，2005年10月15日

梶原　直美（かじはら・なおみ）〔古代キリスト教史〕

Ⅱ．学術論文

（1）「オリゲネスの祈祷理解―罪人の祈り　その内的態度をめぐって―」，『神學研究』（関西学院大学神学研究会）52号，2005年3月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

（1）書評「土井健司著『古代キリスト教探訪―キリスト教の春を生きた人々の思索』新教出版社、2003年」，『キリスト教史』（キリスト教史学会）59集，2005年7月，単著

Ⅳ．学会発表

（1）「オリゲネスの祈祷における恩恵理解―『祈りについて』に基づく一考察―」，キリスト教史学会（第56回大会），於：関東学院大学関内メディアセンター，2005年9月17～19日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

（1）関西地区研究集会開会礼拝奨励「信頼と自由」，キリスト教学校教育同盟，於：広島セントラルホテル，2005年10月28～29日

（2）中央教育研究委員会開会礼拝奨励「つながりと委任」，キリスト教学校教育同盟，於：東京ガーデンパレス，2006年1月5～6日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）キリスト教学校教育同盟 関西地区大学部会 委員

（2）キリスト教学校教育同盟 教育研究中央委員

（3）日本基督教団甲陽園教会 主任担任教師代務者

垣本　充（かきもと・みつる）〔予防医学，食物学，環境科学〕

Ⅱ．学術論文

（1）「英国の大豆食品事情と EU の食品安全政策」，『フードジャーナル』増刊「大豆と技術」，25巻４号，2005年10月，単著

（2）「動物性食品摂取に基づくベジタリアン調査Ⅱ」，*Vegetarian Research* 6(1)，2005年12月，共著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

（1）「巻頭言・人にも地球にもやさしいベジタリアン」，『マクロビオティックマガジン』，49巻12号，2005年11月，単著

Ⅳ．学会発表

（1）「中高年女性の動物性食品摂取状況に基づくベジタリアン調査」，日本ベジタリアン学会第５回大会，於：京都会館，2005年12月17日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）日本ベジタリアン学会 理事長

（2）NPO 法人・日本ベジタリアン協会 代表理事

（3）International Vegetarian Union, International Councilor

（4）Vegetarian Research, Honorary Editor

(5) Journal of Environmental Information Science, Review Committee
(6) ㈳環境情報科学センター『環境情報科学』査読委員
(7) ㈶クナイプ療法協会 顧問
(8) 米国法人・国際地球環境大学（I. E. E. U.）客員教授

加藤　映子（かとう・えいこ）〔言語習得〕

Ⅱ．学術論文

(1) "Reading Instructional Models: Review of Reading Discovery and Success for All"，『大阪女学院大学紀要』創刊号，2005年3月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1)「大阪女学院短期大学からの留学」，『大阪女学院短期大学紀要』34号，2005年3月，共著

Ⅳ．学会発表

(1)「英語教育への iPod の活用とその実践」，CIEC 研究会，於：東京オペラシティタワーアップルセミナールーム，2005年6月18日
(2) "Mothers' Reading Practices in Japan and the US"，International Congress for the Study of Child Language，於：ドイツベルリン Freie 大学 Henry Ford Building"，2005年7月27日
(3) "Book Reading Practices in Three Cultures: Japan, Taiwan, and the US"，International Congress for the Study of Child Language，於：ドイツベルリン Freie 大学 Henry Ford Building，2005年7月29日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1) レクチャー＆ワークショップ「Reading Stories to Children」，智弁学園和歌山高等学校，於：智弁学園和歌山高等学校，2005年2月17日
(2) 講演「子どものことばを育てる」，大阪女学院同窓会，於：大阪女学院ヘールチャペル，2005年5月14日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 言語科学会 運営委員
(2) 大阪女学院高等学校 スーパーイングリッシュハイスクール指導委員

小松　泰信（こまつ・やすのぶ）〔図書館情報学〕

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「web を活用した情報リテラシーサポート」，女性のキャリア形成支援サポーターとなるために：女性のキャリア形成事業実行委員会，於：大阪女学院大学，2005年12月18日

馬渕　仁（まぶち・ひとし）〔教育社会学，カルチュラル・スタディーズ〕

Ⅱ．学術論文

(1)「多文化主義・多文化教育へのまなざし」，『オーストラリア教育研究』11号，2005年9月，単著
(2)「多文化主義・多文化教育再考」，『異文化間教育』No．23，2006年3月，単著

Ⅳ．学会発表

(1)「多文化主義／多文化教育の行方―ビクトリア州を中心にして―」，オーストラリア学会，於：同志社大学，2005年6月12日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「多文化主義の捉えなおし―英語圏・オーストラリアの試行錯誤に学ぶこと―」，南山大学社会倫理研究所，於：南山大学，2005年4月27日
(2)「特定課題研究『異文化間教育の語りなおし』―指定討論者」，異文化間教育学会，於：明

治学院大学，2005年5月28日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）異文化間教育学会 事務局長・常任理事

Ⅶ．科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

（1）「異文化間教育に関する横断的研究―共通のパラダイムを求めて―」平成16年度科学研究費補助金　基盤研究(B)(1)，2004年～2006年

McCarty, Steve（マッカーティ・スティーブ）〔バイリンガリズム，オンライン教育，日本学，アジア学〕

Ⅱ．学術論文

（2）“Global Communications in a Graduate Course on Online Education at the University of Tsukuba”, GLOCOM Platform, Colloquium＃60．東京：国際大学、グローバル・コミュニケーション・センター，2005年3月，単著

（2）「オンライン教育の理論と実践―受講者の目線から」，アドバイザリーボードメンバーからの寄稿．東京：チャイルド・リサーチ・ネット，2005年4月，単著

（3）“Cultural, Disciplinary and Temporal Contexts of e-Learning and English as a Foreign Language”, *eLearn Magazine*: Research Papers. New York: Association for Computing Machinery（ACM），2005年4月，単著

（4）“Spoken Internet to go: Popularization through Podcasting”, *The JALT CALL Journal,* Volume 1, Number 2，2005年8月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

（1）「オンラインとオフラインの融合」，メンバー便り．東京：NPO 先端教育情報研究所，2005年2月，単著

（2）Review of *Making Pilgrimages*, *Pacific Affairs,* Volume 78, No. 3（Fall 2005）. University of British Columbia, Canada，2006年1月，単著

Ⅳ．学会発表

（1）“International Online Mentoring for Language Teaching and Professional Development”, JALT CALL　2005（全国語学教育学会コンピュータ利用語学教育研究部会の年次国際大会），於：立命館大学，2005年6月4日

（2）“Definitions and Knowledge in Successive Educational Media”, USQ/Asia-Pacific CALL: International Conference on Pedagogies and Learning - Meanings under the Microscope，於：University of Southern Queensland（USQ）, Australia，2005年9月18日

（3）“Machine-Aided Spoken Language Evaluation: The Test Delivery Module”（Teaman, McCarty & Tamura），日本 e-Learning 学会・神戸情報大学院大学、学術講演会：Open Source Software と e-Learning，於：神戸：コンピュータ総合学園，2005年11月19日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

（1）“Japanese People and Society”，国際協力機構（JICA），於：Japan International Cooperation Center, Osaka，2005年4月20日、8月10日、8月24日

（2）“Stakes and Stakeholders in the Japanese Educational System”，米国 North Central College, School Observers program，於：大阪女学院大学・短期大学，2005年7月7日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

（1）World Association for Online Education（米国認定の NPO）, President（会長）

Ⅶ．科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

（1）“Machine Aided Spoken Language Evaluation”，Kaken Ministry of Education, Science and Culture of Japan under Grants-in-Aid No. 17520406，2005年4月1日～2007年3月31日

元　百合子（もと・ゆりこ）〔国際人権法・国際関係論〕

Ⅰ．著訳書

(1)『ディアスポラを越えて：アジア太平洋の平和と人権』，国際書院，2005年3月，共著（共同監修）

(2)『国際法から見たイラク戦争：ウィーラマントリー元判事の提言』，勁草書房，2005年3月，共訳

Ⅱ．学術論文

(1)「人身売買対策における人権の主流化：欧州審議会の新条約を中心とする一考察」，『大阪女学院大学紀要』２号，2006年3月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1)「他のアジア諸国女性に対する性暴力・性的搾取の継続」，INTERJURIST（日本国際法律家協会），2005年8月，単著

(2)「核兵器の廃絶は緊急を要する課題である」（C・G・ウィラマントリー元国際司法裁判所裁判官・副所長講演の翻訳・監修）民主法律協会『民主法律』264号，2005年12月

中井　弘一（なかい・ひろかず）〔英語教育・教授法〕

Ⅱ．学術論文

(1)「学習方略自己評価・自己診断調査に基づく英文法授業の一考察」，『大阪女学院短期大学紀要』35号，2006年3月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1)「灯し続けることば」，『三洋化成ニュース2005』夏 No. 431，2005年7月，単著

(2)「高校英語――コミュニカティブな英語教育推進の中で」，『Interactive』20号，2005年12月，単著

(3)「学習形態と評価の工夫」，『PCOLA デジタル版英語科教育授業実践資料集』，2005年9月，単著

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1) “What are the benefits of team-teaching?”，独立法人教員研修センター西日本 ALT 研修，於：神戸ポートピアホテル，2005年5月30日

(2)「ディベートとは」，関西学生証券連盟研修，於：大阪経済大学，2005年5月15日

(3)「初めてのディベート」，クレオ大阪（東）大阪市民講座，於：クレオ大阪東，2005年5月～7月 全８回

(4)「ディベートとは」，三共株式会社講習会，於：三共株式会社，2005年7月23日

(5) “Strategies for Progress and Managing Change in SELHi Research Project”，神戸 JALT 研究会，於：神戸 YMCA，2005年9月17日

(6)「英語科教科教育充実への方策，大阪府中学校英語教育研究会，於：岬町立岬中学校，2005年12月1日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 大阪女学院高等学校 SELHi 運営指導委員会 運営指導委員・顧問

(2) 大阪府立寝屋川高等学校学校協議会 座長

奥本　京子（おくもと・きょうこ）〔英文学・平和学〕

Ⅰ．著訳書

(1)「対話のための『回路』としての芸術のあり方を模索する―歴史教科書のオルタナティブとしての朗読劇プロジェクト―」『平和を拓く―安齋育郎教授退職記念論集―』，第Ⅱ部「平和への世紀へ」第13章，かもがわ出版，2006年3月25日，単著

Ⅱ．学術論文

(1)「トランセンド・ワークショップ実践報告：日本平和学会春季研究大会における北海道東海大学（開催校）企画」，トランセンド研究会『トランセンド研究』第３巻第１号，2005年5月，単著

(2)「ホーポノポノ『アジア・太平洋の平和』改訂プロジェクト〈その１〉―ガルトゥングによる東アジアの和解のための朗読劇の問題点と提案―」，トランセンド研究会『トランセンド研究』第３巻第２号，2005年12月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1) 巻頭言「対話について思うこと―私たちは、本当に関わり、つながることができるでしょうか―」非暴力平和隊・日本（NPJ）ニューズレター第７号，2005年3月31日

(2) 翻訳：「ホーポノポノ『アジア・太平洋の平和』」原著：ヨハン・ガルトゥング、原題：PAX PACIFICA in Yokohama Harbor（2002），トランセンド研究会『トランセンド研究―平和的手段による紛争の転換―』第３巻第１号，2005年5月，共訳：藤田明史・中野克彦

(3) 翻訳：「人道的アート・マニフェスト『共に平和のために』」原著：リダ・シェラファトマンド、原題：Humanitarian Art Manifesto（2004），トランセンド研究会『トランセンド研究―平和的手段による紛争の転換―』第３巻第１号，2005年5月，単訳

Ⅳ．学会発表

(1) “The Role of Drama for Regional Reconciliation: ‘Ho’o pono pono: Pax Pacifica’ Proposed by Johan Galtung and TRANSCEND-Japan”，Gernika Peace Museum Foundation V International Peace Museum Conference（第５回国際平和博物館会議）グループ：Art and Peace 5月4日，於：スペイン、ゲルニカ，2005年5月1日～６日

(2)「ガルトゥング平和学の理論と実践―トランセンド法について―」（対話を軸にして），日本平和学会　2005年度春季研究集会「非暴力」分科会，於：立教大学，2005年6月5日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「身近な意見の対立から紛争・戦争まで―平和的解決の方法を探るワークショップ」，箕面市立中央生涯学習センター講座『くらしの中から平和学』，於：箕面市立中央生涯学習センター，2005年1月15日

(2)「対話の方法―トランセンド・エクササイズ」『対話の方法―紛争転換と非暴力実践の中でうまれる対話』（21日トランセンド・ワークショップ），企画・開催・講師，於：日の出人権文化センター三階会議室，2005年2月20～21日

(3)「『今』『私』さえよければいいの？――『公』と『個』の関係を考える――」パネリスト，2004年度京都 YWCA2.11集会 ワークシンポ（シンポジウムにワークショップを取り入れて），於：京都 YWCA ホール，2005年2月26日

(4)「みんなで考えるピースワークショップ『平和的手段による紛争転換』」，大阪いずみ市民生協，於：生協ホール BC（堺東），2005年5月28日

(5)「戦争の原因とその平和的解決を考える」，大阪いずみ市民生協，於：社会福祉会館（堺市），2005年5月28日

(6)「平和的手段による紛争の転換――トランセンド――」ひょうご講座（大学連携　県内全大学連携）独自科目『戦争と平和の人間学』全12回中第４回目，ひょうご大学連携事業推進機構，於：神戸県立神戸学習プラザ，2005年6月7日

(7)「子どもたちに平和をどう伝えるか」『ピースおおさか　教員のための「平和学習」講座』，ピースおおさか，於：ピースおおさか（財団法人大阪国際平和センター），2005年8月4日

(8)「トランセンド基礎講座」藤田明史氏，中野克彦氏とともにトレーニング担当，トランセンド関西・トランセンド研究会，於：大阪女学院大学，2005年9月24日

(9)「トランセンド・トレーナー養成講座―平和ワーカーになろう！――」藤田明史氏、中野克

彦氏とともにトレーニング担当，同時にガルトゥング博士によるスーパーヴィジョンを受ける，トランセンド研究会，於：和光大学，2005年10月８～10日

(10) “Transcend Workshop: Conflict Transformation by Peaceful Means”「NGO・JICA 連携による実践的参加型村落開発コース」（JICA-NGO Partnership Training Course for Practical Participatory Rural Development）ファシリテーター：奥本京子・中野克彦・藤田明史，関西 NGO 協議会企画、JICA 主催，於：JICA 大阪国際センター，2005年10月13～14日

(11)「平和教育の現状と課題――平和的手段による紛争の転換――」大阪経済法科大学2005法学シンポジウム『平和と人間の安全保障』講演会，大阪経済法科大学，於：大阪国際交流センター，2005年11月15日

(12) “For Deep Understanding and Firm Solidarity between China and Japan: A Message from Three Citizens of Japan” 藤田明史・中野克彦・奥本京子，主催『対中日歴史問題的正確認識与相互和解学術検討会（中日歴史問題と和解セミナー）』，復旦大学日本研究中心（センター）・国際経営技術講習所，於：中国 上海復旦大学日本研究センター多目的ホール，2005年11月19日

(13)「不戦の集いワークショップ（トランセンド／非暴力ワークショップ），立命館大学「不戦の集い」実行委員会，於：立命館大学，2005年12月15日

(14)「平和学入門：身近なところから平和を考える」，芦屋三條教会，於：芦屋三條教会，2005年5月15日・7月31日・10月30日

(15)「子どものための平和学習会」，芦屋三條教会，於：芦屋三條教会，2005年5月15日・7月31日・10月30日

(16)「ほんわかミーティング」渡辺裕文氏，清末愛砂氏とともに，企画 非暴力平和隊・日本＆トランセンド研究会協力，於：大阪女学院大学，2005年1月21日・3月4日・5月20日・6月24日・7月22日・9月30日・11月25日

(17)「トランセンド関西ミーティング」，トランセンド研究会関西グループ主催，於：大阪女学院大学，2005年4月22日・6月25日・8月26日・10月22日・12月16日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 国際トランセンド 認証トレーナー

(2) T: AP（Transcend, Art and Peace), Board of directors（Asia 代表）

(3) トランセンド（平和的手段による紛争転換）研究会 事務局長・会計

(4) 日本平和学会 平和教育分科会 共同コーディネーター

(5) 非暴力平和隊・日本 運営委員

(6) 非暴力平和隊・日本 理事

(7) 日本学術会議 平和問題研究連絡委員会（第19期）委員

(8) 日本平和学会平和と芸術分科会 設立・責任者

関根　聴（せきね・あきら）〔社会学〕

Ⅱ．学術論文

(1)「看護学生における性役割意識の一考察」，『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢』６号，2005年3月，単著

(2)「要介護高齢者と家族の紐帯」，『大阪女学院短期大学紀要』34号，2005年3月，単著

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「若者世代における「女らしさ」「男らしさ」」，近畿大学人権教育講演会講師（講演），於：近畿大学，2005年6月17日

(2)「高槻市男女共同参画条例フォーラム」パネリスト，高槻市主催，於：高槻市市民交流センター，2005年6月25日

(3)「家族について考えてみませんか？―いま、家族が問われている「危機」と「絆」―」，愛媛県人権対策協議会主催，於：四国中央市土居町文化会館，2005年10月9日
(4)「家族について考えてみませんか？―いま、家族が問われている「危機」と「絆」―」，愛媛県人権対策協議会主催，於：今治市伯方町公民館，2005年11月20日
(5)「高齢社会における家族という人間関係―世代間の関わりについて考えてみませんか―」，愛媛県人権対策協議会主催，於：松山市白鳳会館，2005年12月4日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 高槻市男女共同参画審議会 委員
(2) 高槻市女性センター 男性セミナー企画運営委員会 会長

関根　秀和（せきね・ひでかず）〔高等教育論，社会学〕

Ⅱ．学術論文

(1)「教学支援と大学改革－プロフェッショナル・ディベロップメントについて―指定討論者の視点から―」，『大学教育学会誌』27巻1号，2005年，単著
(2)「学位課程教育としてのスタート」，『文部科学時報』1555，2005年，単著
(3)「大学改革と大学教育学会―短期大学の視点から―」，『大学教育学会誌』27(2)，2005年11月，単著
(4)「評価文化形成への出発」，『財団法人短期大学基準協会 News Letter』32，2005年，単著
(5)「評価文化の形成にむけて」，『IDE 現代の高等教育』No 476，2005年，単著

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 大学教育学会常任理事
(2) 近畿都市学会評議員
(3) キリスト教文化学会理事
(4) 大学設置審議会運営委員会委員・大学分科会委員
(5) 大学評価・学位授与機構　評議員・短期大学評価委員会委員
(6) 私立大学教育研究高度化推進専門委員
(7) 短期大学基準協会副会長・第三者評価委員会委員長
(8) 日本私立短期大学協会常任理事

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1) 大学教育学会シンポジウム（提言者）
(2) 海外体験学習フォーラム（提言者）
(3) 大学評価・学位授与機構短期大学評価作業部会副部会長（訪問調査）

Swenson, Tamara（スェンソン・タマラ）〔Mass Communication, International Communication, Media and Society, Writing and Composition, Second Language Acquisition〕

Ⅳ．学会発表

(1) “Internal migration & homelessness of elderly male Japanese: *Big Issue Japan's* portrayal.”, International Development Studies Association: Developing Areas Research and Teaching, 於：Boulder, CO, USA，2005年4月4日
(2) “Mass killing in Darfur Sudan: How have the world's media framed it?”, International Communication Association，於：New York, NY, USA，2005年5月28日
(3) “Consideration of ‘Other’: Media attention and ethnocentrism among Japanese and Americans”, International Association for Mass Communication Research，於：Taipei, Taiwan，2005年7月28日
(4) “Literacy, reading and the future of American democracy”, Common Ground: Third

International Conference on the Humanities, 於：Cambridge, U. K.，2005年8月5日

(5) “Literacy, reading and the future of American democracy: Further perspectives”，Common Ground: 5th International Conference on the Book，於：Oxford, U. K.，2005年9月12日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1) “Civil war and genocide in Darfur: Where did media watchdogs speak out?”，Sudan Awareness Conference，於：Boulder, CO, USA，2005年11月2日

田中　義信（たなか・よしのぶ）〔国際協力，開発教育〕

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 日本ボランティア学会 企画委員

(2)（特活）アジアボランティアセンター 監事

Teaman, Brian（ティーマン・ブライアン）〔Phonetics, Computer Assisted Language Learning, Speaking English as a Second Language, Machine–Aided Spoken Language Evaluation〕

Ⅳ．学会発表

(1) “Machine-Aided Spoken Language Evaluation: The Test Delivery Module”，Japanese E-Learning Association，於：Kobe Institute of Computing，2005年11月18～19日

Ⅶ．科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

(1) “Machine Aided Spoken Language Evaluation”，Kaken Ministry of Education, Science and Culture of Japan under Grants-in-Aid No. 17520406，2005年4月1日～2007年3月31日

Verity, Deryn（ベリティ・デリン）〔English, ELT〕

Ⅱ．学術論文

(1) “Vygotskyan Concepts for Teacher Education”，Proceedings, PanSIG Conference，2006年3月，単著

(2) “How Professionals Think: Private Speech in Teaching”，Proceedings, JALT National Conference，2006年3月，単著

(3) “Role-play and Orientation to Task”，『大阪女学院短期大学紀要』第34号，2005年3月，単著

Ⅳ．学会発表

(1) “Vygotskyan Concepts for Teacher Education”，PanSIG (JALT)，於：Keizai University, Tokyo，2005年5月15日

(2) “Becoming a Teacher Trainer: One Teacher’s First Steps”，Teachers of English to Speakers of Other Languages (TESOL)，於：San Antonio, Texas, USA，2005年3月31日

(3) “How Professionals Think: Private Speech in Teaching”，JALT National Conference，於：Shizuoka, Japan，2005年10月10日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1) “Using Whole Discourse Tasks for Language Teaching”，Temple University Japan MA/PhD program Public Seminer Series，於：Temple University Japan，2005年1月25日

(2) “Several teacher-training workshops on language pedagogy and language acquisition theory”，United States State Department (Fulbright Commission，於：Rabat, Morocco and Amman, Jordan，2005年2～3月

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) JALT Journal, Associate Editor

米田　信子（よねだ・のぶこ）〔言語学〕

Ⅱ．学術論文

(1)「ナミビアの多言語使用―アフリカ諸語をめぐる新たな動き―」,『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』（平成13年度～16年度科学研究費補助金研究成果報告書）、梶茂樹，石井溥（編）2005年5月，単著

(2)「独立ナミビアの多言語教育」,『脱帝国と多言語化社会のゆくえ』（ことばと社会別冊２），東京：三元社，2005年6月，単著

(3) "Tone Patterns of Matengo Nominals.", Cross-linguistic Studies of Tonal Phenomena: Historical Development, Tone-Syntax Interface, and Descriptive Studies（S. Kaji ed.），東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所，2005年12月，単著

Ⅲ．その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

(1)「多言語データベース」,『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』（平成13年度～16年度科学研究費補助金研究成果報告書），梶茂樹，石井溥（編），2005年5月，共著

Ⅳ．学会発表

(1)「ナミビアの言語政策：新しい動き」，日本アフリカ学会，於：東京外国語大学，2005年5月28日

Ⅴ．その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

(1)「タンザニアの女性と子供たち」，アフリカ・カルチャー講座，於：ハービス PLAZA，2005年4月12日

(2)「独立ナミビアの多言語使用：10年の動き」，関西学院大学21世紀 COE プログラム「多文化と幸せ」ワークショップ，於：関西学院大学サテライト，2005年1月24日

Ⅵ．学会および公的な機関の委員

(1) 近畿・大阪私立短期大学英語弁論大会 総務委員

Ⅶ．科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

(1) 2005年度科学研究費基盤研究（A）(2) 海外調査「未調査のバントゥ諸語および近隣諸言語の記述・比較研究」（研究代表者：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授 加賀谷良平），2005年4月1日～2006年3月31日